

苫小牧市地域女性活躍推進事業【北海道苫小牧市】

地域の実情と課題

本市で実施したコロナウイルス感染症の影響に係るアンケート調査結果からコロナ禍における女性への影響が大きいことがわかりました。このことから、女性への相談体制の充実、居場所づくり、貧困対策等を実施していく必要があります。

事業の特徴

日頃より困りごとを抱えている市民と接している民間事業者の柔軟な発想を生かしながら、コロナウイルス感染症拡大による影響が大きい女性への悩み相談を行い、必要な支援につなげていきます。また、相談につなげるために気軽に参加できる居場所づくりや女性用品の配布を行います。

事業の効果

事業実績は女性用品の配布3,715件、居場所づくりの参加者数558名、相談件数79件でした。居場所づくりの参加者には参加してモヤモヤが吹き飛んだとおっしゃる方が複数いたり、相談から必要な支援につながったケースがありました。

目的・目標

社会全体で男女の地位などに差はないと感じている人を増やす。

14.9%(平成27年度)→25.0%(令和3年度目標)

苫小牧市男女平等参画都市宣言を見聞きしたことがある市民割合を増やす。

40.0%(平成27年度)→70.0%(令和3年度目標)

連携団体

社会福祉法人苫小牧市社会福祉協議会、特定非営利活動法人木と風の香り、平等社会を推進するネットワーク苫小牧、特定非営利活動法人ワーカーズコープ

今後の課題

女性用品の配布数や居場所づくりの参加者数の割に、相談件数が少なかったため、困っている方が気軽に居場所づくりに参加できる仕組みを作る必要があります。令和4年度に同様な事業を行う際には、地域や時間を決めて、毎月、この日はここで居場所づくりや相談をやっていることがわかるよう、わかりやすい事業設計に努めていきます。

事業の概要

苫小牧市地域女性活躍推進事業

①女性用品の配布～3,715件

コロナウイルス感染症拡大の影響により困難を抱える女性が相談につながるように、女性用品の配布を実施。

主な配布先：市役所、市民活動センター、小学校、中学校、高等学校、大学、児童センター、コミュニティセンター、フードバンク



②居場所づくり～参加者558名

コロナウイルス感染症拡大の影響により困難を抱える女性のモヤモヤの解消及び相談につながることを目的に実施。

主な実施内容：コットンライナーを作ってみませんか、性のお話し座談会、おしゃべりカフェ、風呂敷と母乳育児と日々のことおはなし会、女性のためのこころとからだの健康サロン、紙芝居読み聞かせ会



③女性相談～相談件数79件

独居で話し相手がいなく寂しいころ、借金の問題、健康の問題、夫等からのDVについて、子どもの問題、猫の多頭飼いによる飼育崩壊について、買い物難民の問題等、多彩な内容の相談がありました。